

Series of the Ticket
シリーズ・ザ・チケット



I

108

Series of the Ticket
シリーズ・ザ・チケット



I

108

あなたが愛を感じた
その時点でそれは完了だ

あなたの望むものは
完璧な形でそこに提供されている

ここにアンカーを下ろせ

いかに現実に振り回されようとも
ここにくさびを打てば心配ない

まえがき

今回のテーマは愛です。

愛はあなたにこの上ない幸せをもたらすこともあれば、あなたを失意のどん底にたたき落とすこともあります。

また素晴らしい喜びとともに始まった愛が、醜みにくい愛憎劇あいぞうげきに変貌してしまふこともあります。

愛は私たちの人生に希望を与えたり絶望を与えたりします。

私たちは愛に翻弄ほんろうされます。

私たちの人生は愛にかき乱されます。

どうして愛は幸せだけを運んでくれないのでしょうか。

違います。

本当は愛は幸せだけを運んでくれているのです。

喜びだけを運んでくれています。

あなたに希望しか与えていません。

ではどうして？

その答えを書きました。

愛をどうして振れた形よじで経験することになるのか、その答えです。

そして愛を本来の形として経験するための答えです。

あなたが愛を完全な充足として経験することを祈っています。

それではスタートです。

Ⅰ
(愛)
インデックス

Part. 1

愛とは何か

13

愛の正体

14

愛は奇跡

19

愛は豊かさ

24

愛は安らぎ

28

愛は永遠

31

愛と憎しみ

35

愛は神

42

Part. 2

愛の完全性
49

頼るべき指標 50

完結している実像 62

愛は一方的 70

前提の誤り 84

普遍的な真実 91

エゴのレンズ 103

レンズを外す 109

取り越し苦労 120

属性の変わる瞬間 127

幻覚 132

Part. 3

覚めない夢	135
夢が変質する瞬間	140
プリズム	140
実像を見つめる	150
愛の実像を経験する	157
実像から離れたがるエゴ	158
アンカーを使う	166
次に起きてくること	175
疑念	181
疑いの生じる場所	185

Part. 4

解毒	192
疑念を消去する鍵	198
今という瞬間の偉大さ	203
信じるということ	221
信じる対象	224
水は上から下に流れる	241
ケーススタディ	245
始まり	246
見えてくるもの	252
失われた視力	257

エピソード

281

錯覚の猛威	261
向かうべき場所	264
依頼	268
リビルド	274

Part 1

愛とは何か

愛の正体

愛とは何か。

愛とは次のように定義することが出来る。

愛とは無償で一方的なものだ。

この完全なる唯一の状態が愛である。

そして私たちの全てはこれで出来ている。

私たちに愛以外の属性はないのだ。

私たちに見えているものも、全て愛で出来ている。

私たちに見えているもので愛以外のものは存在しない。

そして私たちに見えていないものも、全て愛だ。

愛以外のものはどこにも存在していない。

あなたも愛であり、私も愛だ。

あの人もその人も愛だ。

愛でない人などいない。

そしてあなたの傍らにいるペットも愛だ。

愛、愛、愛、愛、愛、愛、愛！

全ては愛だ。

愛とは完全無欠なものだ。

愛はその属性しか持ち合わせていない。

だからあなたが愛を感じた時点でそれは完結している。

愛を完成させるために何らかの条件は必要とされない。

愛はそれ自体で完璧なものだからだ。

つまり最初から完成されている。

「この愛を育てなきゃ」とかあなた方は言うけど、愛はあなた方に慎重に育ててもらわなきゃ成立しないものではない。

なぜなら既に成立しているからだ。

育む必要も何かを付け足す必要もない。

愛はそれほどまでに完璧なものだ。

あなたが愛を感じる。

これで全て完了なのだ。

この完璧な地点から離れるとすれば、それは愛から遠ざかるということだ。

「この愛は完璧じゃない！私が何とかしなきゃ！」

こう考えた時点であなたは愛とは別のものに目を向けているのだ。そしてそれを愛だと誤認することになっている。

この罫にはまらないようにしなくていけない。

そうすればあなたが経験するのは常に愛の完全性を反映したものになる。

すなわちあなたの現実が愛で満たされるということだ。

愛は奇跡

愛はこのように一つの完結した形として定義されるものだ。

もう一度言うが、愛とは無償で一方的なものだ。

つまりそれ自体で完結しているということなのだ。

あなたがあるとき誰かを、あるいは何かを「愛おしい」と思う。

これは胸の中から勝手にあふれ出てきたもので、あなたが意図的にこしらえたものではない。

「これこれこういう条件が成立したら愛を感じるぞ」

と予め準備していたわけではない。

これは突然やってくる。あなたの意向とはまるで関係無しに。

言ってみれば愛との出会いだ。

既にある実像としての愛をあなたが知覚する瞬間だ。

現実世界にいながら実像をそのまま知覚することになっている。

早い話が奇跡だ。

愛とは奇跡なのだ。

あなたが愛を自覚する。

これは奇跡の瞬間だ。

あなたは当事者としてその瞬間に立ち会うことになっている。

このときあなたは、愛を知覚すると同時に、それを表現するものとなっている。

受信機であり発信器だ。

マイクでありスピーカーだ。

あなたは愛を受け取りながら同時にそれを発信するものとなる。

このときあなたは愛の媒体となっている。

媒体だからあなたは何もする必要がない。

「この愛をこうしてやろう」

などと考えても無意味だということだ。

なぜなら愛は完全無欠だからだ。

あなたが何かを付け足す必要もないし、そもそもそんなことは
出来ない。

あなたは媒体に過ぎないからだ。

愛はあなたを通して現れ、この世界に発せられる。

風が頬を撫でるように。

この瞬間、あなたは得も言われぬ至福を感じる。

これはあなたがまさしく実像に触れているからだ。

このときあなたが感じている至福が何よりの証拠だ。

愛との出会いとは実像を経験していることに他ならないのだ。

愛は豊かさ

愛は実像だ。

だからその属性は完全無欠だ。

完璧なる神の表現が愛なのだ。

完璧ということは一切の不足がないことを意味している。

つまり愛とは完全なる充足だ。

「愛は経験できたけど、月末の支払いのために何とか金を工面しなきゃなんねえな」

こんなことはあり得ないということだ。

完全はどこまで行っても完全だ。

つまり愛にはすべての充足がもれなく含まれているということだ。

「でもよう、愛を感じたからといって月末の支払いが帳消しになるわきゃねえじゃねえかよ」

あなたはこう言うかもしれない。

確かにあなたが「愛によって借金をチャラにしよう」と思っているのなら、それが功を奏すことはないかもしれない。

それは「こうこうしたらこうなるだろう」というエゴのコントロールでもってそれを行おうとしていることに過ぎないからだ。

しかしあなたが愛の完全性を理解していたなら、あなたの人生から不足は消え去る。

敢えて不足を消そうとかしなくてもだ。

なぜなら愛は完全なる充足だからだ。

したがって愛は不完全を形成し得ない。

これが分かれば愛が手段ではなく、そのまま完璧さを構成している完全無欠な充足そのものであることが分かるだろう。

そして愛と取引など出来ないことも分かる。

その必要など一切ないことが分かるだろう。

なぜなら愛はすべてを与えてくれているからだ。

そこに不足の要素は一切ない。

あなたを完全なる充足で満たすのが愛なのだ。

愛は安らぎ

愛とは安らぎだ。

そこに心配の要素は一切ない。

あなたが愛を経験しているとき、なき 凪のような穏やかさを感じているだろう。

それはまるで永遠に続くように感じられる。

これはあなたが実像に触れている証拠だ。

愛は実像だから永遠という性質を帯びている。

永遠ということは「失われる心配が決してない」ということだ。

愛は儂^{はかな}いという言葉は大嘘だ。

「愛は儂い」は錯覚だ。

それは本当は永遠の安らぎである愛を、思考を駆使して敢えて遮断しようとしているに過ぎない。

実像の経験から無理矢理に遠ざかろうとしているだけなのだ。

しかし愛はその性質を変えることが絶対でない。

永遠の安らぎがその性質だ。

あなたがそれを感じれば、愛はその自らの性質をあなたに開示してくる。

それはあなたにとって避けがたいこととなるのだ。

なぜなら愛が実像だからだ。

愛という実像の前では、思考で作り出した幻想など風前の灯火だ。その圧倒的な実感錯覚などいとも簡単に吹き飛ばす。

そうならば、あなたはその安らぎに身をゆだねるほかない。

愛は永遠の安らぎなのだ。

愛は永遠

あなたは愛を与えるべきものだと思っているだろうか。

あるいは愛を与えてもらうべきものだと思っているだろうか。

それとも愛は、あるときは与え、あるときは与えてもらったりするものだと思っているだろうか。

愛はこれらのどれにも該当しない。

愛は与えたり与えてもらったりするものではない。

もしそうなら、愛はあなたによってコントロールが可能なものであることになってしまふ。

お金のように貸し借りが出来たり、パンのように持ったり持たなかったりする事が出来るものだという事になってしまふ。

そしてなにより、愛があなたより小さなものであることになってしまふ。

しかしそんなことはあり得ない。

愛はあなたよりも大きい。

遙かに巨大なのだ。

だから愛はあなたを含んでいる。

あなたの中に愛があるのではなく、愛の中にあなたがある。

またあなたの中に愛があったり無かったりするのではなく、愛の中にずっとあなたがあるのだ。

あなたが途切れることなく、ずっと存在しているのがその証拠だ。

あなたがいたり、いなくなったりしていないのがその証拠だ。

愛は気分で態度を変えたりしない。

愛にそんなことは出来ない。

もとより愛にはそんな属性などないのだ。

あなたがどれだけ態度を変えようとも、愛はその態度を変えることが絶対でない。

だからあなたはずっと存在し続ける。

愛と同じだけあなたは存在し続ける。

つまりは永遠にだ。

愛と憎しみ

では憎しみがなぜ生じるのか。

この世界には愛しかないのであれば、なぜ憎しみが生じているのか。

I (愛)

2014年4月4日 初版第1刷発行

著者 108
発行 インテグレイテッド・インフォ

©108
All rights reserved

本書は著作権法によって保護されています。
本書の内容を無断で転載、記載することは禁じます。
本書を無断で譲渡・転売することを禁じます。